

令和7年度第1回高知県スポーツ振興県民会議 議事要旨

日時：令和7年7月16日（水）13:30～15:30

場所：サンライズホテル 向陽の間

出席：委員24名中13名が出席

出席委員：青木会長、井上副会長

大坪委員、尾下委員、上村委員、川上委員、須内委員、田井委員、竹島委員、
武市委員、常行委員、濱田委員、深見委員

専門的知見を有する者：白石氏

議事：（1）第3期高知県スポーツ推進計画の取組状況について

（2）その他

- ・新県民体育館の整備等について
- ・高知南中学校・高等学校跡地の活用について
- ・高知県スポーツ振興県民会議委員の次期改選について

1 開会

知事挨拶

皆様ご多用の中お集まりいただき感謝申し上げます。

日頃より、青木会長をはじめ委員の皆様方には本県のスポーツ振興に関し格別のご協力を
いただいておりますことをこの場を借りて御礼申し上げます。

前回の開催からの半年間を振り返ると、まずはスポーツ参加の拡大という観点から、2月に
開催した高知龍馬マラソン2025では、フルマラソンエントリー者数がコロナ禍後初めて1
万人台に回復するという明るいニュースがあった。

先月28日には、パリオリンピックで金メダルを獲得された櫻井選手、清岡選手も参加して
いただいた、レスリングの体験教室を初めて開催し、約120人の皆さまにご参加いただい
た。昨年来のスポーツの機運の高まりというのが続いていると感じている。

また競技スポーツ面でも、本年11月に開催される東京2025デフリンピックにも、高知県
より陸上競技の2名の選手が参加をされることが内定しており、県内での機運の醸成を図
って参りたい。

こうしたスポーツ振興を推し進めていく事を中核とし、第三期の高知県スポーツ推進計画
を実施しているところ。国の計画に合わせて5年計画としているが、施策については毎年度
見直しを行いバージョンアップを図っていく。

新しい取り組みとして、若者の関心が高いアーバンスポーツと言われるような新しい分野
のスポーツの振興に前向きに取り組んでいる。

例えばeスポーツイベントの開催や、ダンスを中心としたアーバンスポーツなどを推進している。施設整備として、須崎市内に四国で一番の規模のスケートパークを整備する計画も進んでおり、こうしたことへの支援も含め取り組んでいる。

これは、スポーツにおける新しい分野ということはもちろん、人口減少が進む中で、若者や女性に選ばれる地方を目指していかないといけないという大きな流れもあるため、そうした流れに沿った取り組みとしてご紹介した。

本日の会議では、今年度の主要な施策の取り組み状況を説明し、今後の強化の方向性についても議論をお願いする。

もう1つ、計画のPDCAの部分とあわせ、新県民体育館の整備についても、最新の状況を報告し、委員の皆さんからのご意見をいただきたい。

県民体育館は設置から50年が経ち老朽化が進んでいる。昨今では、香川県が1万人収容規模の大きなアリーナを整備された。私も現地で拝見し、同じ規模は難しいと思うが、各種の文化的なイベントや相当規模のイベントにも対応できるような規模や機能での整備が望まれる。そういったことも含め、スポーツに限らず観光分野、防災分野の専門家も入っていただき、今年度基本計画を作っていくための検討会を設ける作業をスタートしている。

本県のスポーツ振興施策がより実効性のあるものとなるよう精一杯努力する。委員の皆様のご指導、ご鞭撻を改めてお願いし、開会にあたっての挨拶とさせていただきます。

委員の新規就任について

社会福祉法人高知県社会福祉協議会会長、井奥和男様に代わり、井上浩之様

高知県町村会会長、池田三男様に代わり、上村誠様

高知県高等学校長協会会長、長岡辰治様に代わり竹崎実様

公益社団法人高知県看護協会会長、藤原房子様に代わり、森下安子様

青木会長挨拶

昨年の国民スポーツ大会では久しぶりに30位代という成果が出た。何より一定の種目ではなく、あらゆる種目での活躍があるのは大変喜ばしいこと。

今年度はすでに四国ブロック大会が行われており、それぞれの種目で活躍が見られている。レスリングのイベントなどもあった。オリンピックの興奮が冷めない時期に開催することは、競技の普及に広がりを持たせる。多くの子どもたちが親しみを持って参加することが、スポーツ人口を増やしていく点で大事なこと。見る人を増やす、支える人を増やす、そして自分がやってみたいという人を増やすといったことに繋がる大事なことだと思う。

本日は今年度初の県民会議。本年度の取組の進捗状況と来年度の施策の強化、方向性についてご意見をいただくことになっており、積極的な議論をお願いする。

2 議事

議事（１）について、資料１－１～１－４を使用して説明。

柱１ スポーツ参加の拡大についての質疑

●川上委員

若者の関心が高い新たなスポーツの推進ということで、アーバンスポーツで1,000人、eスポーツで2,000人のイベント等への参加者を目標に挙げられていた。

スポーツは必ず健康の面と、取り組みに伴うスポーツ障害という面がある。それに対して、スポーツ障害予防プログラムなどを作って障害予防にあたっている。

eスポーツは、健康スポーツの面から考えると、これをすることによって健康が増進することとはあまり考えられない。負の側面がかなり大きいと思う。

しかし世界的な潮流として、世界大会が行われて非常に盛んになっていることは承知している。単にこれを推進するだけではなく、これに伴う障害にも目を向けながら、負の側面が起きないように注意しないと痛い目にあうと思うので、そういう取り組みもお願いしたい。

○事務局（スポーツ課）

以前からゲーム障害というような言葉が出てきていると感じている。一方で、障害を持った方が参加できることや、高齢者の方もできるという側面もある。

使い方によると思うので、プラスの面、マイナスの面を把握しながらやっていきたい。今年度のeスポーツ事業の中でも情報発信をしつつ、保護者の方にも入っていただき、子どもたちにどのように教育をすればよいか、eスポーツをどのように使えばよいかなどの啓発も行いながら、1つの入り口として子どもたちのきっかけづくりになるような取り組みを考えていきたいと思っている。

●青木会長

eスポーツは、体の健康に寄与するという面は乏しいようなことがあるが、これまでの限られたスポーツの観点から広がりを持たせていくという意味で取り組むと、負の側面だけではない違う面が出てくるのでは。

●須内委員

私は越知中学校に勤務しており、ファイティングドッグスのホームタウンなので、選手の方々が体育の授業に参画してくださっている。50m走や体力測定ボール投げなど、積極的に関わってくださっている。プロの地域活動への参画や協力は、子どもたちに後ろ姿を見せるいい機会になっていると思う。

eスポーツについて、他県の私立学校では、体育祭でeスポーツ種目を設けたという話を聞いた。スポーツ的な種目が不得手な子どもたちもいるが、eスポーツの種目を設定して、参

画をさせることは、子どもたちにスポーツに興味関心を持ってもらういい取り組みだと思う。

○事務局（スポーツ課）

越知町はファイティングドッグスのホームタウンなので、選手と子どもが身近になっていくことで、選手のいいところも見えるし、逆に応援団を作るという部分で選手が現場に入っていくことはすごく大事ななことかと思う。他の学校でもやっていただくとファイティングドッグスのファン獲得にも繋がっていくと思う。そういったところも取り組んでいきたい。e スポーツに関するご意見も参考にさせていただく。

●上村委員

北川村は非常に少子化になっている。

クラブ、スポーツをするのにも、北川村だけでは何もできず、隣の町と一緒にしないとできない状況。サッカーをやりたければ安芸市まで行かなくてはいけない。

こうした状況を踏まえ、合同で参画していくような仕組みを作れないかをお願いしたことがあるが、簡単にはいかないということだった。

今は子どもに選択肢がない。バレーをやりましょうと決めるとバレーしかない、ソフトボールをやりましょうと決めるとソフトボールしかない。

いくつか選択肢があるといいということで、中芸地区の5町村で、各町村1つでいいので専門的にできる仕組みができればと考えたことがある。ただそのときは、子どもの数は今の倍くらいいた。

ローカルではスポーツに取り組む機会がないので、専門の指導者もない。

そうしたことを考えて、専門の方に指導していただける仕組みを作っていただけるとありがたい。

○事務局（スポーツ課）

以前、教育委員会の方で勤務していた際に中芸にも足を運んだ。その際先ほど言われたように、令和元年度に中芸地区として中体連の大会に出られないかという相談をいただき、その当時の規定ではなかなか難しかった。しかし現在、拠点校部活動や地域クラブという形で、中体連の大会に出られるようになっている。

拠点校は、自分の所属する学校に部活動がなくても、他の学校の顧問の方が見ていただければ構わないという制度になっており、これは中芸の方にも提案させていただいている。

先ほど上村委員も言われたように、各市町村で例えば野球はA町、バスケットボールはB町ということを決めていただき、平日集まるのが難しい場合は休日に集まってできるような、拠点化のようなことを考えていただきたいということで私も何度か足を運んでいる。

国からも、地域クラブの移行についての大きな方針も示されてきているので、教育委員会と

連携して中芸の方にも足を運ばせていただき、指導者のことについても取り組んでいきたいと思っている。

●武市委員

この推進計画の中でも、私が一番重要と考えるのは3歳から7歳ぐらいの間の非認知的な活動。自分で考えて遊ぶという場は一体今どこにあるのか。そういう場は誰が提供するのか。私達はイベントをやるときにそういう場を作ってやっている。5月にはRKCの体力測定を含むイベントに全部で500人来た。そのうち体力測定を目的に来た子どもは100人程度。それについてくる両親もいるので、大人と子どもと一緒にトランポリンなどをしていると、遊び心からスポーツに繋がっていく。そういうことが幼少期にないと、どうしても「させられているスポーツ」になる。

熱中症対策でも、数字だけ追いかけるのではなく、しっかりご飯を食べる、睡眠を取るといった教育はどこでやっていくのか。

そういったことを、高知県の子ども達、あるいはスポーツのためにどこが請け負ってやっていくのか役割整理をしていただきたい。

我々はスポーツ協会に所属しているが、自治体に来る情報があまりこない。おそらくスポーツ課は自治体と話をしていると思うが、その話が我々にこない。

情報共有していただき、一緒になって取り組んでいけるとありがたい。

○事務局（スポーツ課）

先ほど説明を省略するとお伝えしたが、資料の参考資料2の2ページをご覧いただきたい。スポーツ参加の拡大の中で、高知パスウェイシステム事業を展開している。その中に、「あそびバ！」と記載している。こちらは先ほど武市委員が言われた、幼児から小学校低学年ぐらいまでを対象に、県内東部、中部、西部で開催している。

この事業は「日本トップリーグ機構」と連携した事業として、約300名を超える方々に参加していただいた。

県としても親子でできるようなものを毎年提供しており、かなり好評で何度も参加している方もいると聞いている。

県だけでやっても広がりがないので、総合型地域スポーツクラブなどと連携しながら、県内各地で実施できればと思う。

幼児は教育委員会の所管となるため、教育委員会が、幼稚園の先生方を対象にした講習会なども実施している。そういったものも活用しながら、幼児にできるだけいろいろな遊びをさせることもしっかり取り組んでいきたい。

その辺りは資料では見えにくいところなので、幼児という観点で資料づくりなども工夫させていただく。

●田井委員

障害者スポーツについて、以前から障害者施設や学校に支援に行っている。その際、専門的な指導者に指導してもらいたいということを言われる。専門の指導者に指導していただいた方が結果が出るので、専門の方に来てもらいたいという思いがある。

学校には予算がないので児童クラブが支援したり、部活動でも、学校の先生だけでは専門的な指導の仕方がわからないということもある。

障害者の団体だけでなく学校への支援が必要。ぜひ底辺の障害者の方にも、力が入るような事をやっていってもらえたらと思う。

○事務局（スポーツ課）

特別支援教育課と話をしている。できるだけ事業化していきたいと思っているが、まだ検討段階。学校の協力などが得られないといけないので、教育委員会としっかり連携して取り組んでいく。

また、関係する部局としっかり連携しながら、障害を持った方の底辺の部分にも普及していくように取り組んでいきたい。

●井上委員

県社会福祉協議会では、障害者スポーツセンターの運営をしているが、利用者がどんどん減ってきている。コロナ前が年間 25,000 人ぐらいで今は 16,000 人ぐらい。身体に障害のある方の数自体が減少傾向とも聞いている。発達障害の子どもであったり、精神障害のある方の利用が増えてきているが、全体的には減少傾向。

先ほど各地域における活動の拠点づくりの話もあったが、いろいろなイベントを通じて、健康づくり、生涯スポーツという意味でも、利用者自体は増やしていきたいと思っている。

一方で、資料の中に障害者スポーツセンターの機能強化という話があったが、限られたスタッフの中で、特に各競技の専門性という面で非常に厳しい状況。今年度から 4 県のセンターで連携し、例えば愛媛県なら柔道が得意など、各県で得意な分野があるので、連携しながら育成を進めていきたいと思っている。

特に答えは必要ないが、測定会などによる発掘という話があったが、発掘して育成していく段階での障害者スポーツセンターと学校現場、あるいは専門性を持った競技団体といったところのパス回しの仕組みをしっかりと作っていくことで、オールジャパンあるいはパラリンピック等で活躍できる選手の育成に繋がっていくのではないかなと思う。できれば障害者スポーツセンター、教育委員会、競技団体の皆様といったパス回しの仕組みの構築に向けて、協力する場を県が音頭をとって設けていただければありがたい。

●常行委員

令和 7 年度に実施する県民世論調査は、令和 3 年度に健康づくりやスポーツに特化した調

査と同様の項目になるのか。

○事務局（スポーツ課）

スポーツ実施率については、市町村などがわかる等、前回と似たような形で出てくると思う。サンプル数がどれぐらいかまでは把握していない。

●常行委員

前回の令和３年度は、行動変容のステージで運動のレベルのようなものが出て、運動実施者と非実施者に分けたうえで、非実施者の中でも運動やスポーツをこれからやりたいと思っている方と、無関心な方と、その辺をセグメントできたような調査になっていたと思う。関心がある非実施者への調査を令和８年度以降にご検討いただけたらありがたい。

全体的には、アーバンスポーツやｅスポーツなど、かなりデジタル系の話が出てきて新たなフェーズに入ったと感じている。

スポーツの持つ力が、一時的には我々個人の健康づくりや生きがいがづくり、ＱＯＬなどに繋がると思うが、もう少し大きな面で見ると、県の経済の活性化や地域の基盤づくり、子どもたちの国際交流や国際教育の面でも、ｅスポーツやアーバンスポーツが取っかかりになって、普段の身体活動だけではなく、国際的な視点で子どもたちが考えるきっかけになるのではないかと。アウトカムが求められると思うので、そういった意味でアーバンスポーツやｅスポーツが県の施策として出てきたことには、これからの可能性を感じている。

○事務局（スポーツ課）

県立高校や市町村でも、ｅスポーツを取り入れて地域活性化に取り組むようなところも出てきているので連携しながらやっていけたらと思う。

地域の活性化や県の経済、人口減少にも対応できるかと思いますので、いろいろ教えていただきたいと思う。

柱２：競技力の向上についての質疑

●竹島委員

スポーツの環境づくりについて、この猛暑の中で屋外はもちろん体育館でも熱中症の心配をしながらやっている。

県教委として、公立高校の体育館へのエアコン設置は話が進んでいるのか。

○事務局（教育委員会）

高知県立の高等学校でもエアコン設置の準備を進めていきたいと思っており、まずは特別支援学校から順次行っているところ。

予算のこともあるが、今後は年間約４、５校ほどのペースで工事していく予定で、段階的に

整備をしていきたいと思っている。

●竹島委員

県内全域に導入されていくということでよろしいか。

○事務局（教育委員会）

県立高校については順次進めていく。特に災害時の避難所になる所は急ぎたいと思っている。

●竹島委員

予算のこともあるかと思うが、高知県もハード部分を強調してやった方がいいのではないか。全中・インターハイ・全高知への出場チームも、そういった環境の中で練習した方が効率が上がると思うので、ぜひお願いしたい。

アスリートキャリア支援センターが12月開設したが、本格的な運用に至っていないというのは、企業とうまくマッチングできていないということか。

○事務局（スポーツ課）

企業の方に4月頃から訪問を始めた。

高知県企業スポーツ推進協議会の総会のような場でもお願いしていく。以前、県外から問い合わせが1件あったが、登録企業がなくて紹介ができなかった。まずは企業の方に受入れの相談をする。

イメージとしては、通常の勤務形態で雇用していただき、試合などで優先的に休暇を取得させていただくなどの形で雇用していただけないかと思っており、今後企業に説明に行く。

●竹島委員

資料の何ヶ所かに指導者がいないと書かれており、ここ2、3年ずっと言われている。

もう少し積極的に企業に打診して、勤務時間などの調整などもしていただきながらでないと、指導者の確保は難しい。

柔軟にご対応いただけるよう、企業に当たってもらえればと思う。

●白石氏

我々は野球部を持っており、毎年2、3名程度雇用している。

午前中は練習し、それ以降は一般の行員と同じ勤務形態をとっている。

キャリアの方についても、野球部を退部した後は普通の行員として働いている。

選手が競技人生を終えた後、苦労しないよう一般の勤務形態としている。野球選手自体を終えた後は、銀行員として活躍の場を与えている。引退後は支店長になる場合もあれば、役員

になる場合もある。スポーツで鍛えた精神力、体力が仕事の面でも役立っていると考えているので、例えば若いスポーツ選手で何らかの形で就労希望があれば、企業として一定の雇用の機会を与えていくことは重要と思う。

●深見委員

当行もクラブチームを持っており、弓道部、テニス部、サッカー部などが大会に出たりしている。それを目指して就職する方も多いが、それだけではなく、弓道部は学校を訪問し指導にお伺いしている。またサッカー部では、高知大学サッカー部と連携した形で、サッカー教室を年3回、南国と春野と宿毛の方で開催しており、より興味を持ってもらうために小さいお子さんと交流を図っている。専属の指導者とまではいかないが、スポーツに興味を持っていただき、好きになってもらうきっかけづくりには、何かしら役に立てると思う。そういった企業は県内にたくさんあると思うので、そういった企業をピックアップして広報をしていただいたら、企業の方も頑張るのではないかなと思う。

●竹島委員

今は教員も少ないと言われている。働き方改革などと言われている中で、1人の先生が、近隣のいくつかの学校へ指導に行くような体制はできないか。大学を卒業し、教員免許を持って帰ってきた先生のために、そういう制度もあっていいのではないかなと思う。最初に上村委員も言ったように、郡部では1つの学校で1つの部活動にはならないので、何人か先生がいると選択肢が広がるのではないかな。

●上村委員

指導者の話があったが、働き方改革で学校の先生についていろいろ言われている。例えば卓球が専門の先生がいるところは少し強くなるが、先生が異動するとだめになる。そういったことを踏まえて、指導者についてどうすればいいのか、県教委の方でも考えていただきたい。

○事務局（スポーツ課）

学校の先生は異動があり、また専門ではない場合も多いので、部活動指導員は外部の方をお願いをする制度ができています。今、地域展開の前の段階であるが、例えば、地域の方で卓球の指導ができるような方がいれば、その方が学校の先生に代わって部活動や大会引率ができるという制度があるので、そういったものを活用していただき、続けてやっていただいた方が子どもにとってもいいと思う。

ただ、教える人がいないということをやっと言われているので、新しい指導者の発掘が必要。先ほど委員の方からお話のあった企業の取り組みで、例えば高知銀行さんに卓球の指導ができる方が勤務されていれば、高知銀行さんをお願いして指導者としてご紹介していただ

くなど、新たな局面に入っていけないといけないと思っている。各地域で探してもいないので、今ある大きな企業や、企業スポーツ推進協議会でも投げかけて、協力をしていただきながら、子どもたちが地域でスポーツができる環境づくりを高知県全域でできないかご提案をさせていただきたいと思う。

●田井委員

地域クラブという話が出てくる中で、大会引率は必ず資格のある人でないとだめとなっている。資格の部分についてももっと情報提供していただきたい。

発掘された方が資格を取る時に、金額が高い、時間がかかるなどハードルが高いので、何かいい方法があれば良いと思う。

○事務局（スポーツ課）

いくつかの競技では、地域クラブが全中に出るためには資格が要ると言われ始めた。今後は、おそらく地域でやっていただくにも何か資格を持っていたかないと、ハラスメントや子どもの怪我といった色々なことが起こってくるので、研修を受けていただくなどは必要となってくる。

部活動の地域展開については、来年度本格的に動いていくようになるので、それも含めて県としての支援もしっかり考えていけないといけないと思っている。

●大坪委員

スポーツ科学センターの栄養サポートをいろんな競技でやっているが、運用の体制の強化というのは、具体的に人材を増やす、施設の整備など色々あると思うが、どういうものなのか。

○事務局（スポーツ課）

現状の施設が手狭になっている。別のどこかに移るといえるのは現実的ではないと思っているので、まずは出張サポートなど、今もかなり行っているが、回数を増やしたいという声も出ている。それに伴い、人が足りないということも出てきているので、話を聞かせていただきながら、できるだけ拡充に繋がればと思っている。

●大坪委員

私たちは頼まれたときにできるだけサポートしているが、スポーツ科学センターの人はある程度決まった人数で倍以上の仕事をされているので、ぜひ人材部分のところをお願いしたい。

もう1つ、競技力向上ということで、先ほど武市委員が言われたように、食事や睡眠は本当に底辺の部分だけれど大事なところ。

私自身アスリートとお話していて、特に気になるのが栄養不足。サルコペニアやフレイルなど、何となく高齢者は低栄養なんだという認識がある程度広がっているが、実際女子アスリートにアンケートを取ると、月経異常や疲労骨折、貧血などかなりの頻度で出てくる。これはアスリートに関わらず、女性はジュニア選手から思春期に、睡眠や食事がすごく少ないんだろうと感じる。

食事や睡眠といった基本的なところを教える役目を、学校栄養士が担うのか、栄養士会が何かの形で応援するのか。

選択肢が広がらないというのはすごく人生にとって寂しいので、そういう女性を作らないよう、アスリートだけではなく、睡眠、栄養の大切さをアプローチできる場所があったらいいと思う。

○事務局（スポーツ課）

保健の授業で可能な部分だと思う。月経異常など専門的なものについては、性教育の部分で外部の講師の方に学校現場に入ってもらっている。

女性にとって月経異常やピルなどのお話もしていただけており、安心したという生徒もいるのでしっかり取り組んでいきたい。

栄養に関しては、食育の部分でカロリーや栄養のことなど、研修会などもまた教育委員会と話をしてみる。

●川上委員

スポーツには健康スポーツと競技スポーツがあり、競技スポーツは健康に悪いというのは整形外科医の常識。高知大学で、スポーツ障害予防プログラムというものを進めているので、ご協力をお願いする。

高知県の国スポでの順位が上がったり、競技力が上がってきたのはスポーツ科学センターの役割が大きいと思っている。スタッフの数が増えればいいが、現実的になかなか増えないので、外部スタッフが手伝っている状況。資金も足らず、あるスタッフには経費が出るが、一緒に行った人には出ない。そういうことが生じているようで、予算の面を考えていただければ。

高知国体の時からの問題だが、スポーツ医科学を広めようと思っても各競技団体に関心を持ってもらえない。各競技団体にスポーツ医科学の窓口をつくっていただきたいということとをずっと申し上げてきた。

競技団体の中には、スポーツコーディネーターという役割の方ができつつあるとのことだが、それもないところはかなり多い。専門家でなくても構わないので、窓口として情報を受け取る方をつくっていただくことを県の方でも推進していただきたい。

○事務局（スポーツ課）

高知県スポーツ協会が統括団体であるため、話をさせていただきながら、スポーツコーディネーターについても、各競技団体に説明にいかれたらと思っている。

○高知県スポーツ協会

コーディネーターについては、スポーツ科学センターとの連携を図るために、各競技団体から名簿を提出していただいている。スポーツ科学センターと連携をとりながら、派遣していただいたり、実際にセンターで専門体力測定を行っているというのが現状だが、日程の調整が難しいという部分も出てきている。子ども、特に国スポで言えば少年の部の高校生については、夕方や土曜日、日曜日に行くと、いっぱい利用できないということが出てきており、今後、夏休みのときに計画を立て直していく競技団体も出てきているというのが現状。

●尾下委員

お話にあったように、スポーツ科学センターは職員がシフト調整してもいっぱいいっぱいの状態が近づいている。以前川上委員からご指摘いただいたスペースの面でも、かなり限られたスペースの中、苦しい状態で運営しているというのが現状。令和9年度の30団体との連携を考えたときに、おそらく強化策の利用者数が単純計算で8,500名程度になる。今は6,000名程度なので、人的にもスペース的にもいっぱいいっぱいであると思われる。体制の強化とスペースの確保を乗り切らないと、なかなか先が見えてこない。

私が着任してから4年目に入ったが、サポートさせていただいたアスリートの活躍は目に見えて顕著に現れているので、競技団体にもご理解いただき、外部スタッフやサポートスタッフの皆さんにもご協力いただいて、目標達成をしていきたいと考えている。

●武市委員

南国市立スポーツセンターを管理運営しており、体育館には冷暖房機能がついている。私たちは、平成14年の高知国体後、その建物が負の遺産にならないよう努めており、南国市では総合型地域スポーツクラブが運営することによって、50プログラムぐらいの種目を日々行っている。

県民体育館の建て替えにあたって、学校の夏休み期間中には、高等学校、中学校の競技大会が平日も重なってくる可能性があり、そういった大会等の情報があれば早めに言っていたきたい。

平日も高齢者から子どもたちの夏休み教室もたくさんやっており、それを調整することも必要となる。

●濱田委員

昔、卓球の指導をしていた大学生の話です。とても熱心な学生でしたが、入学して半年くらいして練習に身が入らなくなり、授業にも出席せず、単位がでないという話が伝わってきま

した。他の学生によると、どうもeスポーツにはまり、朝までやっており、授業にも出ていなかった。私は未だにeスポーツというものがよくわからないが、先ほど川上委員がおっしゃったように、スポーツで体力をつけるということになるとeスポーツはマイナスだと思う。

少し前、日本卓球協会の会議に出たときに得た情報として、特に中学生の競技人口がすごく少なくなっており、高知県も半分ぐらいになっている。令和7年度の目標値にスポーツイベント2,000人という数字が出ているので、自分もeスポーツを勉強していかないといけないと思う。これはスポーツというのだろうかという複雑な思いもあるが、勉強したい。

今の子どもたちはすごく周りの人が手をかけてくれて、栄養についての勉強をする機会等も与えてくれたりし、至れり尽くせりの時代だが、昔は競技力を向上させなければ、自分で勉強して栄養も偏らずにとる時代だった。環境づくりにより全部がそろわないと選手が育たないのかもしれないが、本人がもう少し努力をするような方向を教えてあげるのがいいのではないかと考えている。

○事務局（スポーツ課）

「ストリートファイター」のイベントでプロの方が来るとそれだけでかなりの集客があると聞いている。

ただそればかりやるのではなく、親子で一緒にできるようなプログラムも用意したい。委員の言う事例は、のめりこんでお金をどんどん払っていくようなもので、本当にゲーム障害と言われるようなものだと思うので、そういったことにならないようにeスポーツの活用については気をつけなければならない。マイナス面にも留意して開催しようと思っているので、ぜひ見に来ていただけたらと思う。

柱3 スポーツを通じた活力のある県づくり

●上村委員

先ほども申したが、高知県の中山間地域でもスポーツに取り組めるような環境を作ってもらいたい。近隣市町村に通う形でもないよりましなので、持続できるような体制を整えていただければと思う。

○事務局（スポーツ課）

県教委と取り組んでいきたい。

●尾下委員

高知ユナイテッドSCがJ3に参入し、2月18日に今シーズンがスタートした。観客もコンスタントに2,000人程度入り、熱気もありファンの皆さんの生きがいになっていると思う。そういった輪を広げることが、ひいては県全体の活気に繋がると思う。

●井上委員

先日、障害者スポーツセンターの職員と話をしたときに、スポーツ大会の誘致みたいなこともやってみたいと言っていた。新しい試みとして、全国レベルの障害者スポーツ大会の誘致などを検討させていただいて一緒に進めていけたらと思う。

議事（２）について、資料２、３を使用して説明。

●武市委員

南国市立スポーツセンターの指定管理をしている。来年度の７月に向けて、４、５件、重複しており、理由としては冷暖房設備があるからだと思う。県民体育館が解体工事になることを前提に、ほかの施設に冷暖房を整備していくような予定はあるのか。

○事務局（スポーツ課）

夏の期間、県の大会や中学生、高校生の大会の開催が考えられるので、冷房は必要だと思っている。夏場の遮熱対策は県庁内においても重要だとし、関係部局とも早急に何とかできないか協議をしている段階なので、県民体育館の再整備に合わせて、これも重要な課題として議論をしているところ。

●尾下委員

県民体育館の再整備に関して、令和６年度の利用状況について皆さんと共有させていただきたいと思う。体育館施設が 111,919 人。室内プールが 57,933 人で、合計で 169,852 人。また全体の料金収入は、福山雅治さんのコンサートが開催されたことや、令和５年度に実施した室内プール改修工事から利用者の回復もあり、過去最高の約 3,471 万円。

休館がなかった令和４年度と比較して、利用者数が 107.5%。料金収入は 113.9%となっている。

また、体育館施設の利用申請１件当たりの人数は、利用者数のピークだった平成 28 年度の 44.7 人から、令和 6 年度には、33.9 人まで減少。少子化や人口減少の影響で、団体やチームを構成する人数が減少傾向にあるものと思われる。県民体育館室内プールの特徴として、高齢者や障害者の方などの減免利用の割合が挙げられている。令和 6 年度には、利用者数ベースで 52.9%。利用料金収入ベースで 56.4%となっている。数字からわかるように、有料の利用者と減免での利用者が逆転している状況。春野総合運動公園と比較しますと、春野は利用者数ベースで 37%、料金収入ベースで 35.1%になっており、県民体育館は利便性が高い施設なので、高齢者の方が身近に感じご利用いただいている施設になっていると思う。最後に、スポーツ教室の開催状況ですが、令和 6 年度には 65 の教室を開催し、延べ参加者数

が 13,353 人、参加料収入が約 1,134 万円。ピークの平成 28 年度から 8 年間で、教室数は 1.4 倍、参加者数が 2.3 倍。参加料収入は 2.6 倍と大きく伸びているのが現状。

○事務局

スポーツ教室の実施により、県民のスポーツ実施率向上にも繋がっていると思うので、引き続きお願いしたい。

●濱田委員

グラスマッチを 1 日中エアコンをつけて開催したら、結果として怪我人も倒れた人もゼロ。費用はかかるが効果は大きいと感じた。

3 閉会

以上

署名 青木章泰